

聴こえの追求



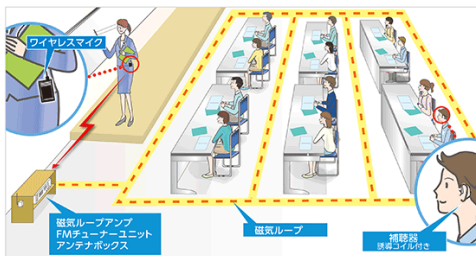
# めだかの学校 (138号)



遂にオリンピックが開催されました。クーベルタンが提唱した「参加するに意義がある」からは、かけ離れて行く傾向が見られますが、今回は、ドーピング問題が明るみに出て連日新聞紙上を賑わせました。2020年のオリンピックは東京で開催されます（期間7/24～8/9）。めだかの学校の校長は既に今現在74歳であり、東京会場へ出向いて観戦は出来ないと思います。好きな競技を見るのでなく、聴こえの支援システムを注目したいのです。ループや無線機器の工夫が望まれます。それこそ難聴者の我々は人に先立って聴こえの工夫に取り組みなければなりません。ループ環境は充実し、補聴器のTスイッチをONにすれば色々な情報が補聴器に流れ込んでくる。――聴こえには工夫がいろいろあります。



誰もが高齢になると、耳が遠くなる。耳に手をかざすと何とか聞こえる。それでダメなら聞き直す。筆談交じりの会話に甘んじる。「お前さん！補聴器を買ったがいいぞ！」「ウン、買おう」となる。現ナマ持って補聴器店に駆け込む。という事はしないで下さい。まずは耳鼻咽喉科に行って医師と相談して下さい。この医師と相談を始めてから、自分の難聴がこういった種類の難聴なのかを知って下さい。伝音性難聴ならば補聴器の効果は期待できます。感音性難聴ならば補聴器に過大な期待を持つことは危険です。今までの月刊誌で詳しい程、補聴器の選択について書いてきましたが値段が高価なほど良く聞こえるとは限りません。もう五年ほどの昔の話ですが恒例のめだかの学校体験相談会におばあさんを連れた若夫婦が来られました。「補聴器を購入したが、上手く聞こえないという。どうすれば良いのですか？」とい



う相談でした。補聴器屋さんではひと通りの検査をしたが、良く聞こえる補聴器をあてがってください。と念を押したらしい。めだかの学校では補聴器店を批難したことはありません。聴こえの工夫を体験する事により、色々学んで頂くのです。体験教室に装備しているループ線の説明に合点が行くと補聴器にはTスイッチが必需品だと気が付かれます。めだかの学校教室には図の様に床にループ線を張り誰かがマイクで話をしています。この環境でループの聞こえの具合を確認して貰います。補聴器にTコイルがない人はループ音声専用受信機を貸し出します。兎に角、体験して貰うことが大切です。もし、あなたの補聴器にTコイルが装備してない場合は補聴器屋さんにご相談ください、



## ことラボ 小松高廣

8月の体験会では、めだかの学校の皆さんと一緒に開発した集音マイクをソラへ組み込んだ「ソラアドバンス」、加えて無線マイク「澄音（すみね）ワイヤレス」の受信機能も追加した「ソラワイヤレス」という新製品をお披露目させて頂きました。ソラアドバンスは、磁気ループ受信機能・外付けの口元用マイク・外部入力・イヤホン出力という従来のソラが持っている機能をすべて備えており、新たに内部マイクを追加して集音マイクとして使えるようになりました。外付けの口元用マイクも無指向性シリコンマイクから指向性コンデンサマイクへと変わり、より口元で話す声だけを捉えやすくなりました。従来よりソラをお使いの方が聞かれた感想としましては、音質としてはソラに比べて音がハッキリしたというご意見や、少し音が硬い感じがするというご意見もありました。また、ソラワイヤレスは無線マイクの受信機能があるので、テレビの音を直接ソラで聞く場合に線を気にしなくても良くなるどころが大変便利という声もありました。無線マイク機能や外部入力機能を賢く使うことで、他の機器との組み合わせもいろいろと工夫することができますので、状況に応じたより便利な使い方の研究も今後皆さんと一緒にできたらいいなあと感じています。



さて、今回は「音の質」というものについて少しお話しをさせて頂きたいと思います。音の質は一言で表すのがとても難しく、好みもありますし、また各人の耳の聞こえ具合にもよりますので、一概にどういう音が良いか悪いかということはなかなか言いづらいところがあります（前々回に投稿させて頂いたイヤホンの話とも関連します）。また、オーディオ好きの方はよくご存知かもしれませんが、音の好みは料理の好みと似ている部分がとても多くあります。例えば、ご自身がラーメンを食べる場面を想像してみてください。皆さんそれぞれに、あっさりした味（あるいはこってりとした味）が好きとか、塩加減が強い（あるいは弱い）味が好き、というようにいろんなラーメンの味には好みがあるかと思います。それは小さい頃から今に至るまでいろんなものを食べた経験を脳が覚えていて、

ラーメンの味を自分の舌が感じ、それを脳が覚えている過去の味と比べて「あっさりした味（あるいはこってりした味）」と判断しています。音も同じように、小さい頃から今まで聞いた音を脳が覚えていて、しかも今聞いている音を自分の耳が感じ、それを脳が覚えている過去の音と比べて「柔らかい音（あるいは硬い音）」というように判断しています。そして、今食べているものの味の感じ方がご自身の体調によって変わる場合がある（疲れているときには酸っぱいものは強く感じる）ように、耳の聞こえも当然ながらその時の体調によって変化します。ご自身がどういう感じの音（高音が強い音、低音が強い音、ハッキリした音、少しぼんやりした音など）が好き=聞きやすいと感じるのか、改めて考えながら音を聞かれてみるのも良いかと思えます。さて、ソラワイヤレスと澄音ワイヤレスは試聴用貸出も行なっておりますので、ぜひいろんな場面と体調でご試聴して頂き、様々なご意見を頂けますと私としてもとてもありがたいと思えます。新製品のカタログや試聴用貸出をご希望の場合にはことラボのホームページにありますお問い合わせフォーム、またはメール・FAX・ハガキにてその旨ご連絡いただけましたら幸いです。今回の体験会では今後の新製品についても皆さんから多くのご期待の声を頂きまして、大変嬉しく思いつつ今後も精力的に開発に努めていきたいと考えています。9月の体験会には間に合わないかもしれませんが、近いうちに家庭用小型磁気誘導ループの試聴も試作でき次第させて頂きますので、もうしばらくお待ち頂けますようお願い致します。

<https://kotalab.jp/>

代表 小松高廣(こまつ たかひろ)

〒448-0011 愛知県刈谷市築地町1-11-12

TEL: 08069140927

Mail: [komatsu@kotalab.jp](mailto:komatsu@kotalab.jp)



## お盆に寄せて ー田中康子

お盆が近づくとお寺様が檀家に一軒一軒出向かれてお経をあげて下さる。私方は親鸞聖人の浄土真宗大谷派です。お寺様と一緒に上げる正信偈は主人は殆んど暗記しているようです。

私の生家は法然上人の浄土宗ですので本願寺のお経は全く知りません。浄土宗の一枚起請文は子供のころ毎晩母についてお参りしたので今でも唱える事が出来ますが嫁ぎ先のお経はさっぱり分りません。リズムも良く分らず、印度、三蔵、釈迦如来などの言葉ぐらいしかははっきり聞こえませんがリズムもつかめず苦労しています。

ご先祖様仏様のことは義母が健在の時は取り仕切り、亡くなった後は主人がやってくれています。私は毎朝、お茶を供え、ご飯は炊いた時にお供えして、勤めに出ているのを口実に殆んど手を出さずじまいで過ごしてきました。お寺様の来宅時に家にお茶を差し上げる程度で通り抜けてきましたが今年のお盆にお



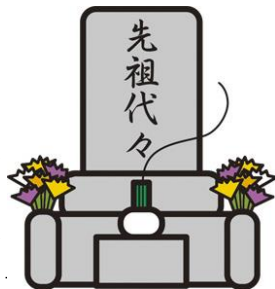
経を聞きながら一緒に唱えていた時、もし主人が先に逝く様な事があつたらどうしようとの不安が頭を過りました。何もお寺のことは知らずに通ってきてしまい、耳の悪いものが皆様と同じ様にお付き合いが出来るだろうかとー



先代のお寺様には難聴の事は話ししてありますが若い息子様の代になり、もう一度きちんと難聴について教えを請わなければいけません。



お経とお寺様と主人との会話を補聴器とソラを使って聞いていましたがまだまだ不十分です。ワイヤレスシステムを使ってみようかなと思っていますが難聴はやはり地域のお付き合いに壁があるように思います。どうしたらこの壁を乗り越えられるのか、寄り合い、集会、冠婚葬祭等健聴者の方なら難なくこなされることなのにこれが聴覚障害者故の悩みなのではないでしょうか？



難聴に補聴器ーーー校長：三好和宏

めだかの学校校長は、平成元年に聴神経摘出手術で聴力を失った。医師の勧めで補聴器を装備しての出勤となった。手術して聞こえが充分でない左耳に補聴器を調整したが音は良く聞こえるが、肝心の言葉が聞き取れない。退院時に購入した補聴器は箱形をしており、マッチ箱の大きさでした。長さ1メートル位のイヤホンが付いており、箱型本体で音声を捉え拡声してイヤホンから耳に音が流れる仕組みです。今まで音が十分に聴こえない難聴の人がこの補聴器で音を聴くと大きく鮮明に聞こえるので驚きます。ここで気を付けないといけない事は、この空間に溢れる音は補聴器には大きく鮮明に聞こえますが、言葉の聞こえがハッキリするかと云えばそうではないです。難聴には感音性、伝音性、その混合性と3種類あります。感音性難聴の方は難しいです。これは聴神経のトラブルであり、補聴器だけで対処するのは難しい時がある。感音性難聴の方は子音弁別力検査を受けて下さい。どこの耳鼻科医でも補聴器店でも検査をしてくれると思います。自分が難聴だと気が付けば補聴器さえ買えば大丈夫だと思いがちですが、自分に合った補聴器を選ぶのは大変難しいのです。信頼できる補聴器店を探さねばなりません。両耳とも70デシベル以上であれば「障害者手帳」の発行を申請しなければなりません。その申請方法は市役所の福祉課に相談し、指導を受けて下さい。聞こえが悪くなると、自宅に引きこもりがちな生活になります。聞こえが悪いと友人家族と云えども会話を持ちにくいものです。校長は聴覚障害4級ですが、とても友人が多く、誰とでも会話出来ます。しかし年齢が70歳を越すころから話が出来なくなりました。音声情報による脳への刺激が激減して来ました。この頃は物忘れが酷くなり、困っています。



平成28年度「めだかの学校」

<文化祭>

日時：平成28年11月5日（土曜日）

AM10時～PM4時

場所：蒲郡市勤労風櫛会館

〒443-0056 蒲郡市神明町18-4

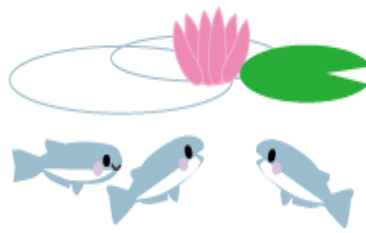
午前 野村公樹――UDトークが開く新しい世界

天野慎介――これからの補聴器の歩み

昼食 ブース見学

午後 小松高廣――聴こえの工夫のポイント

中村健太郎――特別講演



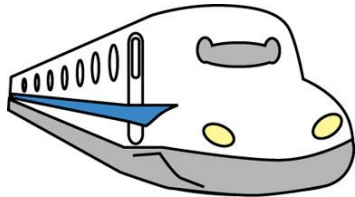
講演者と講演内容は変動があるかも知れません。

139号では確定版を掲載します。

2020年には東京オリンピックが開催されます。

中村先生の話では、聴覚障害者の為の聴こえの工夫も研究しつつあるとの情報を得ております。

校長は78歳になっているが、観戦参加したいものです。



体験会に参加希望の方は、前もってFAXで通知下さい。

Eメール：[miyoshi.kazuhiro@topaz.plala.or.jp](mailto:miyoshi.kazuhiro@topaz.plala.or.jp)

URL：<http://www9.plala.or.jp/miyoshikazuhiro/>

FAX：0533-68-4443 番号が変わりました。

連絡先：愛知県蒲郡市竹島町27-19 三好和宏宅

## 難聴を軽視するなかれ――三好和宏

校長の聞こえは活動とは裏腹で従前の補聴器では全く会話が出来なくなってきました。朝、目覚めても補聴器を装備しなくなりました。重要な会議がある時にはノートテカを頼みます。今使っている補聴器はもう8年ほど使っていますがマイク・外部入力・ループを使い分けれる機種ですが、とても気に入っていました。それがどうした訳か耳鳴りの音に押されて聞こえが悪くなってしまったのです。個人的な能力の低下が原因で聞き取り力がとても低下してしまいました。確かに加齢と共に色々な機能が低下していく事は承知していますが、色々な器官の機能が相乗的に衰えていく事を実感しています。家族でテレビを見ていても、流れいく字幕を読む速度が追いつかない。この字幕については健聴者は画面と字幕を同時に追っかけている。即ちテレビから流れてくる音楽、映像、ナレーションも同時に感知している。難聴者は情報を同時には捉えきれない。最近認めたくないが、人と会話をしている時に、10分も聞き手に回ると、会話の内容が判らなくなっていく。難聴でもしっかりと会話に参加しないと色々と機能の低下が進行していく。

「あ～歳だな」云う言葉は色々な意味を含んでいます。



## 体験会相談会の御案内

9月3日（第1土曜日）

10月1日（第1土曜日）

11月5日（第一土曜日）★

12月3日（第1土曜日）

★ 11月5日今年最後の文化祭を予定します。

原則として第一土曜日が定例日です。

場所：蒲郡勤労福祉会館

時間：午前10時～午後16時

☆：退出自由です。